

講義コード	513147902	
講義名	臨床心理学 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

## 授業の概要

## 【授業の概要】

保育現場では、子どものみでなく、保護者や同僚など様々な人と関わります。その中で、他者を理解し、自分が何ができるのかを客観的に判断することが求められます。本科目では、心理テストや心理療法の概論を学び、実際に心理テストや心理療法を体験することで、自分自身の特徴を理解します。

## 【授業の方法】

- ①プレゼンテーションの方法  
授業では、板書とICTを活用する。
- ②授業形態  
講義と演習を交互に行う。
- ③アクティブラーニングの有無  
・心理検査を実施したり、心理療法を体験したりします。
- ④課題に対するフィードバックの方法  
採点した小テストを返却する。

本授業では、なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には、心理テスト、描画、ワークを通して、子どもを理解する視点について体験的に学びます。  
講義の週には、これらの背景にある基礎理論について学びます。

## 授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな心の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが、また、問題に限らずとも、子どもの絵や遊びには、子どもの気持ち、知的な高さ、精神的な成熟度、社会性の発達の程度、運動機能の成長度など、さまざまなことが表現されています。  
本授業では、保育中の子どもの行動を、より多面的に理解できるようになるために、子どもの絵や遊びについて学びます。  
また、他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では、自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、①②を重視します。

本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「1. 諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「6. 自学自習・自主自立を実践できる」「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。

## 授業計画表

回	項目
第1回	オリエンテーション (授業の進め方)
第2回	心理テスト① (TEGと交流分析)
第3回	人格論 (フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論)
第4回	表現療法① (コラージュ療法)

第5回	表現療法②（箱庭療法）
第6回	心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論）
第7回	精神障害について
第8回	心理テスト②（バウムテスト・HTP）
第9回	心理テスト③（風景構成法）
第10回	発達検査（遠城寺式・津守稲毛式）
第11回	心理療法について
第12回	実際の心理面接室の見学・体験
第13回	心理面接技法
第14回	心理面接体験
第15回	まとめ

## 授業時間外の学修

予習：45分

予習課題を実施。

復習：45分

授業時に配布したプリントを読み返し、次回の小テスト対策をしてください

## 実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

## ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
◎	◎	○	○

## ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を越えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
具体性	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を自らのかわる問題として豊かにイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿をイメージできていると認められる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まらず、具体的な行為や姿を概ねイメージできているが、現実との乖離も見られる	単に授業内で教授された用語を使用するのみに留まり、具体的な行為や姿をイメージすることが出来ないためレポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
考察力	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し説得力のある形で結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけようとするが、説得力に欠ける	調べた結果のみを提示するに留まり、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
実現可能性	事例に対する支援方法として実現可能性が認められるとともに、副次的な効果も期待できる。	事例に対する支援方法として実現可能性が認められる。	事例に対する支援方法として実現していくには、一部改善点が見られる。	事例に対する支援方法として実現していくには、大幅な改善点が見られる。

## 成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	10%	

成果発表		
授業への貢献度	10%	
レポート	70%	
その他		

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	

## ICTを活用した双方向型授業の内容

ム	ビデオ会議システム
用	チャット
用	掲示板の活用
	メール等の活用

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである
--------------------------------

## アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

## 教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

## 参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

## SDGsとの関連

に	4. 質の高い教育をみんな
---	---------------

## 特記事項等

- 1) 実務経験のある教員  
教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。
- 2) 科目のナンバリング  
SUN2405
- 3) オンライン授業の実施方法  
Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

## 学生へのメッセージ

子どもの言動、製作物、遊びなどには、ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。心の問題、発達課題、子どもの気持ち、家族の関係などなど。これらのことを意識し、「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう、一緒に学んでいきましょう。

**研究室（訪問先等）**

中央研究棟 2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

**電話番号**

028-670-3680(直通)

**授業用E-mail**[yoshinori@sakushin-u.ac.jp](mailto:yoshinori@sakushin-u.ac.jp)**成績評価法**

授業での課題への取り組み姿勢や発表、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 10%（授業態度など）
- ② 小テスト 10%（小テストの成績）
- ③ 心理テスト体験レポート 30%（心理テストのレポート課題）
- ③ 期末レポート 40%（授業修得度）

毎回、授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。

小テストの結果も成績評価に含まれます。

必ず、予習・復習して授業に臨んでください。